

ICT 活用“稼げる技術”短期習得実践道場～ぶどう短梢栽培～

◎ 6 月 27 日実施第 4 回講座の内容から



摘粒前の果房



摘粒後の果房

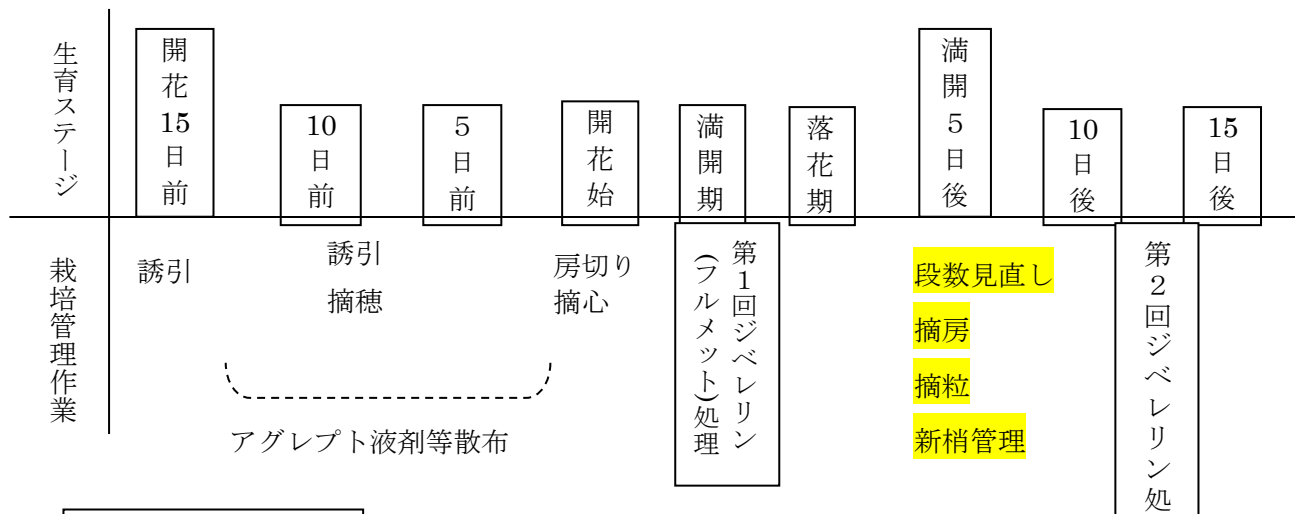
2 股など、果房先端の形が悪い場合は、2 回目のジベレリン処理前に形を直す。ぶつかっている部分は粒がない場合もあるので、形が良くなりそうな軸を残す。

どうしても果房先端の形が悪い場合は、軸の軟らかいシャインマスカットに限り、切り上げてよい。シャインマスカット以外の品種では、肥大後も先端が埋まらず、輸送時など衝撃が加わった時に脱粒する可能性がある。

実践道場（ぶどう）第4回 シャインマスカットの着果量管理

平成 29 年 6 月 27 日 長野農業改良普及センター

1 栽培の流れ



摘粒のポイント

- ①軸長を調整する。
軸長が長い場合は上部支柄を切除して、軸長を揃える。
果房下部の結実が悪い場合は、房尻を切り上げてよいが、基本は上部を切除。
- ②摘粒ができなくても、軸長の調整は2回目のジベレリン処理前に行う。
- ③上段は下向き果、中段は上下向き果、下段は上向き果を取りながら、図に従い粒数を制限

2 摘粒の目安

○軸長と着粒数

房重	軸長 cm	段 数	粒 数
500～550g	8	13～15段前後	35～40粒



長野県

- 上段 1 支柄に 4～5 粒×3 段
中段 1 支柄に 2～3 粒×6 段
下段 1 支柄に 1 粒×3～4 段
計 35 粒（若木は 40 粒）

山梨県

- 上段 1 支柄に 4～5 粒×2 段
中段 1 支柄に 3 粒×6 段
下段 1 支柄に 2 粒×5 段
計 35 粒（若木は 38 粒）

下段の着粒過多・もぐり粒に注意。

【大房や多着粒房にならないように注意！】

- 第1回目ジベレリン処理から10日ほど経過して、果粒間の肥大差がはっきりしてから始める。
- 摘粒は早く実施したほうが果粒肥大がよい。山梨県果樹試の調査（6年生樹）では2回目ジベレリン処理6日後の摘粒で14.6gとなるが、処理12日後の摘粒では12.3gとなる。
- 軸長が長い場合は、上段支柄の切除あるいは房尻の切り上げを行い、軸長を8cmに調整する。
- シャインマスカットは果房の上部支柄が伸びやすい傾向があり、肩部が果粒で埋まらない場合がある。

このため、果粒肥大に伴い果粒が盛り上がるように、最上段には少し多めの4～5粒程度を残す。

- 支柄が横伸びしている房は支柄を切り詰め、ある程度果粒が密着した果房に仕上げる。

摘粒が2回目のジベレリン処理前に終わらない場合

軸長の調整だけは2回目のジベレリン処理前に終わらせる。

1回目ジベレリン処理5～6日後の場合 → 軸長5～6cmに調整

〃 10日後以降の場合 → 軸長7～8cmに調整

- 指摘粒による省力化と摘粒期間の前倒し

指で軽くひねる感じで行う。早期実施はハサミより1/3程度に省力化。目の負担も少ない。

白系品種はブルームの溶脱などはあまり問題にならない。

- 摘粒開始時期を早める（予備摘粒の実施）

小粒果、内向き果等を摘粒開始前（1回目ジベレリン処理の数日後）に取り除いておくだけでも摘粒の時間の省力化となる。



図1 指による摘粒

3 着果量の目安と摘房

せん定方法	着 房 数	目標果房重	目標収量
短梢せん定	4新梢に3果房（3,000果房/10a） （主枝間隔2.5m、新梢間隔20cm、新梢数4,000本/10aの場合）	500～550g	1.5t/10a
長梢せん定	9～10果房/3.3㎡（2,700～3,000果房/10a）		

（1）着房調節の時期は、2回目ジベレリン処理前。

（2）着粒数の少ない房、奇形房、生育遅れの房、軸や粒の色の薄い房、弱い新梢の房（1m以下）を摘房する。

（3）目標房数よりやや多めに残し、最終着房数は袋かけ時に袋の枚数で決定する。